

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	小学5年	氏名	A	(知的障がい特別支援学級)
----	------	----	---	---------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・消防車など車が大好きで、名前をよく覚えている。 ・2年生程度の漢字の読み書きができる。 ・具体物を用いながら、20までの加減計算ができる。 ・文字やイラストの入った手順表を手掛かりに、朝の片付けや帰りの支度が一人でできるようになってきた。 ・新しい場所や活動は不安になりやすいが、活動の見通しを持たせることで、自主的に取り組むようになってきた。 ・相手の発言に応じた会話ができるが、困ったときに、自発的に周囲に助けを求めることは難しい。 ・休み時間は友達に誘われて一緒に遊ぶこともあるが、一人で車の図鑑を見たり、学級担任や支援員と話をしたりして過ごしていることが多い。 ・視野に入ったものが気になると、離席してしまう。 ・ダンスが好きで大まかな動作の模倣はできるが、はさみなど手先を使った活動は苦手である。 ・保護者はコミュニケーションの力を身に付け、友達と関わり合いながら成長していくことを望んでいる。 ・本人は、将来、車の運転免許を取得したいと思っている。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態は良好で、生活リズムは確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい場所や活動に対して不安になりやすい。 ・活動の見通しが持てると、自主的に取り組む。 ・車など興味関心があるものを見ると、衝動的に行動してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教師との関わりが中心である。 ・友達に誘われると、一緒に遊ぶことがある。 ・困った場面で助けを求めることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字やイラストなどの手掛かりがあれば、適切に行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな動作模倣ができる。 ・はさみなど手先を使った活動が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活においては、相手の発言に応じた会話ができる。 ・感情などを言葉にして話すことが難しい。 ・困った場面で、助けを求めることができない。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい場所や活動に対して不安になりやすい。 ・活動の見通しが立たず、困ってしまうと周囲に助けを求めることができない。 ・イラスト等を手掛かりに、日常生活におけるコミュニケーション能力を高める必要がある。
--

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援を用いて見通しを持たせることにより、不安感を軽減させ、身近な人とのコミュニケーションの中で、自分の気持ちを伝える方法を身に付けさせる。
--

⑤目標の設定

長期目標	カードを活用しながら、先生や友達に困っていることやしてほしいことを伝える。
短期目標	1学期 支援員の促しによって、カードを用いて先生に困っていることを伝える。
	2学期 自分でカードを用いて、友達に困っていることやしてほしいことを伝える。
	3学期 自分でカードを用いて、先生や友達に困っていることやしてほしいことを伝える。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(1) 他者とのかわりの基礎に関すること	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・担任がカードの意味を教えたり、伝え方のモデルを示したりする。また、本児と担任、支援員とで、設定した場面でのロールプレイを行う。 ・授業中、困ったことがあったときに、支援員がカードを示しながら伝えるタイミングを促す。 ・実際の生活場面で、本児が何に困ったのか、どういった支援があればよかったのか自分で気付けるよう、メモや図で示しながら状況を整理し、振り返りをさせる。 	心(2)・環(5)・コ(5) 心(2)・人(1) 人(1)・環(5)・コ(5)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	支援員の促しにより、カードを使って困っていることを伝えることが確実にできた。3回に1回程度は、自分からカードを用いて、担任に困っていることを伝えることができるようになった。また、先生にしてほしいことについても、カードを自分から用いて担任に伝えることができた。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	小学3年	氏名	B	(知的障がい特別支援学級)
----	------	----	---	---------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日繰り返し行っている登校時の準備や帰りの支度等は、担任や支援員の少しの言葉掛けで、取り組むようになってきた。一方で、活動内容によっては、取り掛かるまでに時間が掛かったり、指示待ちになったりしている。 ・いろいろなことが気になり、集中が途切れやすいが、周囲の様子を見て行動することが増えた。 ・友達を思いやる発言など、相手を意識した言動が見られるようになった。一方で、ドッジボールの試合で負けそうになるとルールを変更するなど、自己中心的な一面も見られる。 ・視線を合わせて、話を聞くことが苦手である。 ・椅子に座った姿勢が崩れやすく、じっとしていることが難しい。 ・平仮名はほとんど読めるが、単語や2語以上の文になると読み間違いが多い。 ・左右の視線移動にぎこちなさが見られ、斜めの点つなぎが苦手である。 ・筆圧が弱く、1学年のときはなぞり書きしかできなかった。2学年になってからは、手本を見て書き写そうとする意欲が見え始め、自分の名前が書けるようになった。 ・自宅から学校まで、長い距離を集団登校している。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から学校までの長い距離を毎日徒歩で登校している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し行う活動は、少しの言葉掛けで取り組むようになってきた。 ・活動内容によっては取り掛かるまでに時間が掛かり、指示待ちになることも多い。 ・いろいろなことが気になり集中が途切れやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を合わせて話を聞くことが苦手である。 ・自己中心的な一面も見られるが、相手を意識した動きや発言ができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名はほとんど読めるが単語や2語以上の文になると読み間違いが多い。 ・周囲の様子を見て行動することができる。 ・左右の視線移動にぎこちなさが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が崩れやすく、じっとしていることが難しい。 ・筆圧は弱いがなぞり書きができる。 ・平仮名を視写することが難しい。 ・斜めの点つなぎが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識した言動ができつつある。 ・視線を合わせて話を聞くことが苦手である。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> ・見通しの持てない活動では、指示待ちになることが多い。 ・いろいろなことが気になり、集中が途切れやすい。 ・姿勢が崩れやすく、身体のバランスが取りにくい。 ・左右の視線移動のぎこちなさが見られるため、文字や図形の形を捉えることが難しい。

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な手掛かりを用いて見通しを持たせ、集中して学習や作業に取り組ませることで、自主的に行動する経験を積み重ねる。 ・姿勢保持の向上や左右の視線移動をスムーズにすることで、文字や図形の形を正しく捉えられるようにする。
--

⑤目標の設定

長期目標	1 単位時間の活動の中で見通しを持ち、集中して学習や作業に取り組むことができる。	
短期目標	1学期	教師と一緒に、スケジュールを見て活動内容が分かり、15分間程度の学習や作業に最後まで取り組むことができる。
	2学期	教師と一緒に個別学習の活動内容を選び、15分間程度の学習や作業に最後まで取り組むことができる。
	3学期	自分で個別学習の活動内容を選び、15分間程度の学習や作業に最後まで取り組むことができる。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(4) 集団への参加の基礎に関すること	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	(2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに1 単位時間のスケジュールを示し、教師と一緒に活動内容を確認する。 ・教師と一緒に活動の終わりの状態を確認し、活動後「がんばりカード」を用いて振り返りを行う。 ・「書く」「読む」など活動内容を変えながら、集中及び姿勢の保持ができるようにする。 	心(3)・環(5) 心(3)・人(4)・コ(2)(3) 心(3)・身(1)・環(5)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを見て、1 単位時間の活動の流れを把握することができていた。 ・終わりの状態を確認することで、15分間程度の活動に集中して取り組めた。 ・自信を持ちにくい活動内容の場合には、指示待ちになる場合があった。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	中学2年	氏名	C (自閉症・情緒障がい特別支援学級)
----	------	----	---------------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でよく手伝いをしており、身の周りのことが自分でできる。 ・気分の浮き沈みが激しい面があり、見通しが持てないことや気になることがあると気持ちが不安定的になる。 ・周囲の視線が気になるようで、集団の中で活動することが苦手である。 ・周囲の状況を見て、直感的に行動してしまうことがある。 ・漢字や計算など、基礎的な学力が学年相応に身に付いている。 ・自分の気持ちを文章にして書いたり、言葉で伝えたりすることが苦手である。 ・自分の気持ちをうまく表現できないと、不機嫌な態度をとってしまうことがある。 ・手先が器用で、調理、裁縫、ペーパークラフトが得意である。 ・読書を好み、毎日本を読んでいる。 ・保護者は、本人のペースで、できることを増やして行ってほしいと望んでいる。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・気分の浮き沈みが激しい面がある。 ・見通しが持てないと気持ちが不安定的になる。 ・周囲の視線が気になり、集団で活動することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の視線が気になり、集団で活動することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直感的に行動してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用で身の回りのことは自分でできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを文章にして書いたり、言葉で伝えたりすることが苦手である。 ・自分の気持ちをうまく表現できず、不機嫌な態度をとってしまう。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの安定を図り、集団の中で主体的に活動できるようにすることで、自信が持てるようにする。 ・自分の気持ちを他者に伝えられるようにすることで、活動や集団に対する不安を和らげるようにする。

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動の中で自己肯定感を高めるとともに、自分の不安な気持ちを他者に伝えられるようにすることで、安心して集団の中で自分の力を発揮できるようにする。

⑤目標の設定

長期目標		教師に不安な気持ちを言葉で伝え、相談することができる。
短期目標	1学期	学級担任からの言葉掛けにより、不安なことを学級担任に言葉で伝えることができる。
	2学期	教科担任に、不安なことを言葉で伝えることができる。
	3学期	自分から学級担任や教科担任に不安なことを言葉で伝え、相談できる。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の始まりに、不安な気持ちを数値化させることで、自分の気持ちを明確にするとともに、何が不安か学級担任に伝えることができるようにする。 ・ 数値化された気持ちの理由を十分に聞いたり、解決方法を一緒に考えたりすることで、本人の不安が軽減できるようにする。 	心(1)・人(3)・環(2)・コ(5) 心(1)・環(2)・コ(5)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不安な気持ちを数値化したことで、何が不安か、具体的に学級担任に話すことが増えてきた。 ・ 1日の活動に見通しを持ち学級担任と話し合ったことで、不安な気持ちを和らげることができた。 また、調理実習など自信のある活動では、苦手意識のあった友達とも一緒に活動する姿が見られるようになった。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	小学4年	氏名	D	(弱視特別支援学級)
----	------	----	---	------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・未熟児網膜症により、右眼は光覚程度、左眼は0.08（矯正視力0.1）程度の視力である。 ・少し離れた場所や薄暗い場所では、人や物の区別がつきにくい。 ・学校では、一人で教室や慣れた場所での移動が可能である。屋外では、道路の凹凸や段差に気付かず、つまずくことがある。また、まぶしさを軽減するため、屋外に出るときにはひさしの付いた帽子をかぶっている。 ・校外学習などで初めて行く場所や交流学級での席替えなど、周囲の変化に対して不安になりやすい。 ・交流学級で音楽と図画工作の授業を受けている。朝の会や給食も交流学級で過ごしている。 ・教科書は拡大教科書を使用しており、特別支援学級には、拡大読書器が備えられている。 ・板書された文字を読んだり書き写したりする際には、弱視レンズ（単眼鏡とルーペ）を使用している。 ・漢字を正確に書くのが苦手で、点や線の数が多かったり少なかったりする。 ・文字の読み書きなど学習以外の場面では自分から弱視レンズを使用する様子が見られず、教師からの指示を待っていることが多い。 ・昼休み等は仲の良い友達と一緒に教室で過ごすなど、人間関係は良好であるが、自分から他者へ話し掛けることは少ない。 ・キャッチボールは難しいが、基本的な運動・動作は習得している。 ・登下校は保護者が送迎している。ピアノ教室とスイミング教室に通っている。 ・本人は、友達と同じようにいろいろなことに挑戦したいと思っている。保護者は、地域の中学校・高等学校へ進学してほしいと願っている。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・右眼は光覚程度、左眼の視力が0.08（0.1）の弱視である。 ・屋外では、日の光をまぶしく感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み等は仲の良い友達と過ごす。 ・初めての場所や変化に対して不安になる。 ・決まった場面以外では、教師からの指示を待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係は良好であり、仲の良い友達もいる。 ・自分から他者へ話し掛けることは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し離れた場所や薄暗い場所では人や物の区別がつきにくい。 ・慣れた場所では、一人での移動が可能である。 ・弱視レンズを使用して、黒板の文字を読んでいる。 ・学習場面以外で、弱視レンズを使用する様子が見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動・動作は習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声でコミュニケーションを行う。 ・自分から他者へ話し掛けることは少ない。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> ・良好な人間関係を構築することができるが、相手の表情等を視覚的に捉えることが困難なため、他者との関わりは受動的である。 ・周囲の状況や変化等に不安を感じても、自分から弱視レンズを使用するなどして、必要な情報を得る習慣が身に付いていない。 ・身体の動きに大きな問題はなく近くの物は見えるため、他感覚の併用を促しながら自分でできることを増やす。
--

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・体育館での集会活動や校外学習など、教室での学習以外に弱視レンズの有効な使用場面があることを理解し、日常生活の中で積極的に使おうとする態度を身に付ける。
--

⑤目標の設定

長期目標	学校生活の中で、自主的に弱視レンズを使用して必要な情報を得ることができる。	
短期目標	1学期	特別支援学級での活動や集会活動、各行事において、教師の促しを受けて、弱視レンズを使用して情報を得ることができる。
	2学期	教師の促しにより、弱視レンズを使用して必要な情報を得ることができる。
	3学期	自主的に弱視レンズを使用して、必要な情報を得ることができる。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(1) 他者とのかわりの基礎に関すること	(2) 確認や認知の特性についての理解と対応に関すること		(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間における指導で、弱視レンズを使って対象物の名前を当てるゲームを行い、遠くの掲示物や小さな物でも自分で見ることができたという経験をさせる。 弱視レンズの使用が有効であると考えられる具体的な場面（体育館での集会、校外学習、遠足など）について、これまでの経験を基に考えさせる。 	心(2)・人(1)・環(2) 心(2)・環(2)・コ(4)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	様々な対象物をゲーム形式で見たことで、特別支援学級の活動では、少しでも見えにくいと感じると弱視レンズを使用する場面が増えた。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	中学2年	氏名	E	(難聴特別支援学級)
----	------	----	---	------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> 健康状態は比較的良好であるが、中耳炎に罹患しやすく聴力低下も見られる。 両耳とも中等度の感音性難聴であり、補聴器を装用している。授業中はFM補聴システムを使用している。 発音は比較的明瞭であり、1対1であれば音声言語のみでコミュニケーションが可能である。 大勢の場での聞き取りや後方からの呼びかけには、反応できないことが多い。一方で、日常生活においては聞き取りが難しい場合でも、これまでの経験を基に、周囲の状況から判断して行動できることが多い。 数学、体育が得意科目であり、国語、英語に苦手意識を持っている。 インターネットを活用して、興味・関心のある事柄について情報を得ている。 交流学級でノートテイク等の支援を受ける際に、周囲の視線を気にするようになってきた。 地域の幼稚園・小学校に在籍していたため友達が多い。しかし、聞き取れなかった会話があっても、その内容を確認することなく、視覚からの情報だけで判断して行動するため、トラブルになることがある。 本人が気付くことのできない聞き逃しや状況に適さない大きさの話声を注意されることが多く、周囲から何か指摘されると、自分だけがいつも責められると感じている。 本人・保護者は、地域の友達と一緒に学習し、高校へ進学することを望んでいる。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 中耳炎に罹患している間は聴力低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲から間違いを指摘されたり注意を受けたりすると、自分だけがいつも責められると感じている。 思春期になり、付き添っての支援（ノートテイク等）は周囲の視線を気にするようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚からの情報を優先して物事を判断するため、思い込みで行動し、友達とトラブルになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器を装用していても、大勢の場での聞き取りや後方からの呼びかけには反応できないことが多い。 日常生活においては、音声情報が聞き取れなかった場合でも、周囲の状況から判断して行動できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 1対1であれば、相手の発言に応じた会話ができる。 聞き取れなかった会話の内容を、周囲の人へ確認することはない。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> 聞き取れなかった音声情報を確認することなく、視覚からの情報及び本人の経験から判断して行動している。 周囲から間違いを指摘されたり注意を受けたりすると、自分だけがいつも責められると感じている。
--

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> 自分の聞こえの状態について知り、聞き取りが難しい状況や聞き分けることが難しい音声情報があることを理解させ、状況に応じた声の大きさや周囲に確認する習慣を身に付けさせる。

⑤目標の設定

長期目標	自分の聞こえの状態を理解し、少人数の場で会話の内容を確認することができる。
短期目標	1学期 自分の聞こえの状態と読話や筆談での視覚的なコミュニケーションがあることを知る。
	2学期 教師とのやり取りの中で、視覚的なコミュニケーションを活用して確認することができる。
	3学期 友達とのやり取りの中で、視覚的なコミュニケーションを活用して確認することができる。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること	(1) 保有する感覚の活用に関すること (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること		(2) 言語の受容と表出に関すること

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オージオグラムについて学習し、自分の聞こえの状態を把握させる。 ・設定した場面で口声模倣を行い、音声情報を正確に聞き取ることができているか確認する。 ・読話や筆談での視覚的なコミュニケーションについて学習し、周囲の人へ確認するタイミングや伝え方について、教師と一緒に考える。 	心(3)・環(1) 環(1)・コ(2) 環(3)・心(3)・人(2)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	自分の聞こえの状態を、オージオグラムの学習を通して客観的に把握することで、これまで周囲から指摘されていた聞き間違いの理由が分かり、本人はとても納得した様子であった。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	小学4年	氏名	F	(肢体不自由特別支援学級)
----	------	----	---	---------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> 健康状態は良好であり、生活リズムは安定している。 痙直型脳性まひ（両まひ）で、普段は下肢装具を着けて歩行（移動）しているが、長い移動のときはクラッチ（杖）も使用するときがある。 両下肢に緊張があり、膝が伸展しにくく、足首が硬いため歩行時に転倒しやすい。 空間認知に弱さがあるためか、教室や廊下では、人や物にぶつかったりすることがある。 交流学級では、国語、社会、算数、理科の授業に参加している。 読書が好きで、図書館から自分の好きな本を借りて休み時間などに読んでいる。 自分から積極的に話し掛けることはないが、自分の好きな話題のときには、友達と楽しく話をすることができる。 経験のないことや自信のないことには不安が強く、消極的になったり、黙り込んだりすることもある。 話し掛けられたり質問されたりすると答えるが、人前での発表は不安があり極度に緊張する。 本人は友達と関わりながら、もっと一緒に活動したいという思いがある。 保護者は自分でできることを増やし、学校生活を楽しんでほしいという思いがある。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 健康状態は良好であり、生活リズムは安定している。 普段は下肢装具を着けて移動しているが、長い移動のときはクラッチも使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験のないことや自信のないことには不安が強く、消極的になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から積極的に話し掛けることはないが、自分の好きな話題のときには、友達と楽しく話をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体と空間との位置関係の認識（空間認知）に弱さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 膝が伸展しにくく、足首が硬いため歩行時に転倒しやすい。 両下肢に筋緊張があるため、膝や足首の可動域が狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から積極的に話し掛けることはないが、自分の好きな話題のときには、友達と楽しく話をすることができる。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> 両下肢に緊張があるため、膝や足首の可動域が狭いことから、膝や足首の緩める運動等が必要である。 自分の身体と空間との位置関係に応じた動き方や、転倒しないための体の動かし方を身に付けることが必要である。 自信がないときや人前で注目を集める場面では、緊張や不安で消極的になることから、見通しを持って、人と関わるようになること必要である。

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の可動域を理解し、周囲の人や物を意識して、安全に移動したり活動したりする力を身に付ける。 興味のある話題や行動のモデルを通して、人と関わる力を身に付ける。
--

⑤目標の設定

長期目標	周囲の人や物及び自分の体の動きを意識し、安全に活動に参加できる。	
短期目標	1学期	教室内の人や物の位置など、周囲の安全を確認してから活動する。
	2学期	自分でクラッチを使う活動や場所を決め、安全に特別支援学級の学習活動に参加する。
	3学期	自分の体の動かし方を意識し、安全に交流学級での授業に参加する。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(4) 障がいの特性の理解と生活環境の調節に関する事	(1) 情緒への安定に関する事	(1) 他者とのかわりの基礎に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 (4) 身体の移動能力に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の時間に、空間認知力を高める遊びや運動をサーキット形式で行う。 ・ 教室の机や物などの配置図を提示しておき、どこを移動するときに気を付けなければならないかを自分で意識できるようにする。 ・ 自立活動の時間と朝の会のストレッチ運動で、身体を弛緩する運動（足首を緩める、膝を緩める、股関節を緩める等の運動）を実施する。 ・ クラッチを使って移動したり活動したりした後に、自己チェック表を用いて、使い方や安全面等の振り返りを行う。 	健(4)・身(4) 環(3) 身(1) 身(2)(4)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	教室内の配置図を見ることで、幅が狭い個所を把握することができた。また、休み時間など周囲の安全を確認して歩行するようになった。
2学期	
3学期	

自立活動の指導「手順シート」

作成日 年 月 日

学年	小学1年	氏名	G (病弱・身体虚弱特別支援学級)
----	------	----	-------------------

①実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題、本人・保護者の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・成長ホルモン分泌不全性低身長症である。家庭で毎日注射をしている。 ・固形物が食べにくいいため、一口大に切って食べるようにしている。 ・ぎこちなさは残るが、歩いたり、ゆっくり走ったりすることはできる。 ・階段では、手すりがある状態で、大人が手をつないでいれば、ゆっくり昇降できる。 ・服やズボンの前後は分かる。服のボタンを留めたり外したりすること、立ったままズボンの脱ぎ着することは難しい。身の回りのことについては、大人にやってもらおうとする気持ちが強い。 ・教師が促すと、いろいろなことに一生懸命取り組もうとする。褒められると、うれしそうにする。 ・知的な遅れはほとんどないため、体育以外の教科学習については、支援員と共に交流学級で学んでいる。 ・学校では、教師や支援員と過ごす時間が多い。友達に自分から話すことは少ないが、友達からの働き掛けに笑顔で応じる姿が見られる。 ・保護者は、保育所から続く友達と同じ場で教育を受けさせたいという強い願いがあった。本人も友達と一緒にいることを望んでいる。

②実態把握の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・成長ホルモン分泌性低身長症であるため、毎日家庭で注射をしている。 ・食事は、一口大に切ったものを食べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことについては、やってもらおうとする気持ちが強い。 ・教師が促すと、いろいろなことに一生懸命取り組もうとする。褒められると、うれしそうにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、教師や支援員と過ごす時間が多い。 ・友達に自分から話すことは少ないが、友達からの働き掛けに笑顔で応じる姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知的な遅れはほとんどないため、体育以外の教科学習については、支援員と共に交流学級で学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いたり、ゆっくり走ったりすることはできる。 ・階段の昇降は支援が必要である。 ・服のボタンを留めたり外したりすること、立ったままズボンの脱ぎ着することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に自分から話すことは少ないが、友達からの働き掛けに笑顔で応じる姿が見られる。

③課題の抽出

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な粗大運動の機会を設けて、四肢を力強く動かすことができるようになる。 ・立位のままの衣服や靴の着脱ができた、衣服を丁寧に畳んだりといった、自分の身の回りのことが自分から正しくできるようになる。 ・本児のペースで活動を行い、できることを実感させて自信が持てるようになる。

④中心的な課題

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動に自分から取り組めるような状況づくりを行い、運動機能や手指の機能の向上と体力の向上を図る。

⑤目標の設定

長期目標	立った状態で着替えをすることができる。
短期目標	1学期 椅子に座った状態で、ズボンや上着の脱ぎ着をすることができる。
	2学期 壁にもたれた状態で、ズボンや上着の脱ぎ着をすることができる。
	3学期 立った状態で、ズボンや上着の脱ぎ着をすることができる。

⑥指導内容の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(5) 健康状態の維持・改善に関すること	(1) 情緒の安定に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	/	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること	(2) 言語の受容と表出に関すること

⑦指導内容の設定

学期	具体的な指導内容	選択した区分・項目
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動を毎日1日の始めに設定して、体操服に着替えて運動する機会を設ける。トランポリンや手押し車など、教師と二人組で楽しみながら取り組めるような運動種目を取り上げる。 着替えの際は、椅子に座って体を安定させた状態で、ズボンや上着の脱ぎ着をさせる。脱いだ衣服は、かごの中に入れ、畳んで所定の位置に置くようにする。 運動や着替えの際、一人でできない場合は援助を求められることができるように、教師は自発的な言動を待ったり、自発的な言動を認めたりする。 	健(5)・心(1)・人(3) 身(3)・コ(2) 心(1)・人(3)・身(3)・コ(2) 心(1)・コ(2)
2学期		
3学期		

⑧評価

1学期	毎日の運動を楽しみにして、着替えをする時間が短縮された。ズボンの脱ぎ着の際は、椅子に座って着替えた。教師の身体的な支援を徐々に減らしていくことで、裏返しにならない脱ぎ方も身に付けることができた。ポロシャツのボタンの着脱は難しいため、教師に「してください」と自ら援助を求めることができた。
2学期	
3学期	